

カルメル

霊性センターニュース



2016年1月

316号

## 目次

年頭のご挨拶	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	2 1
東京	2 2
京都	2 6
名古屋	3 0
北陸	3 1
諸所の企画案内	3 3
年間購読(郵送)のご案内	4 4
編集後記	4 5

2016年 年頭のご挨拶



## 主のご降誕の喜びの内に 新年のご挨拶を申し上げます

昨年も、一年間、『靈性センターニュース』をご購読くださり、まことに有難うございました。読者の皆様に心からの御礼を申し上げます。

昨年 2015 年は、跣足カルメル修道会の生みの親であるイエスの聖テレジア（アピラの聖テレジア）生誕 500 年周年記念にあたり、全世界のカルメル会は、これを盛大に祝いました。日本では男子カルメル、女子カルメル、カルメル在世会が各地で記念の行事や種々の企画に取り組み、この『カルメル靈性センターニュース』も、聖女の靈性を、多くの人々に伝える一助となったのではないかと思います。これを契機に、カトリック教会の教会博士である聖女の教えが、キリストの後に従うすべての人の信仰生活を支える大きな助け、力となっていきますよう、お祈りいたしております。

さて今年、フランシスコ教皇によって、「神のいつくしみの特別聖年」と定められました。キリストのみ顔に輝く神のいつくしみを、私たちがより深く理解し、日々の生活の場において証ししていくことができますように、また神のいつくしみにまだ出会っていない多くの人々に福音を宣べ伝えていくことができますように、神の恵みを願いましょう。

カルメルのこの小冊子が、このために少しでもお役に立てれば幸いです。今年も種々の記事と、黙想会や集い等の企画案内を、みなさまへお届けいたします。

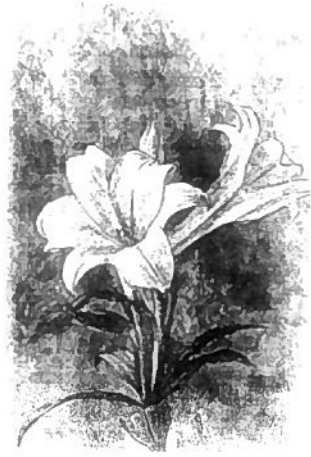
2016 年が、神のいつくしみに満たされた御年となりますように。

編集長

パウロ 九里 彰神父



# 心の泉





## 第二巻

### 第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

#### 5 別の道はない

あなたが喜んで十字架を担うなら、十字架があなたをすべての苦しみの終焉の地まで導いてくれるであろう。しかしそれは、この世にはないところである。あなたが、十字架を嫌々ながら担おうとすると、それはあなたの重荷となり、さらにあなたを圧迫するようになるであろう。しかしそれでも投げ捨てるわけにはいかない。一つの十字架を捨てようとするれば、もっと重い十字架を担わなければならない。

この世で生活したどんな人間も避けられなかった十字架を、あなたが避けられると思うのか？この世で十字架を担わず、患難を味わわなかった聖人がいるであろうか？主イエス・キリストさえも、生きている間は一瞬たりとも、受難の苦しみを感ぜないわけにはいかなかった。「キリストは苦しんで、そののち、死者からよみがえって、光栄に入るはずではなかったか」(ルカ 24・26,46)とイエスご自身が言われた。それなのになぜあなたは、尊い十字架という、この栄光の道以外の道を探そうとするのか？



神の母 教会の母マリア

## いつくしみの特別聖年

—1月—

教会は

いつくしみを示したいという

尽きない望みを抱いています

～『福音の喜び』～

いつくしみの特別聖年を迎えての新しい年、おめでとうございます!!

神の母の祝日ではじまるこの新しい年がキリストの母、教会の母マリアの保護のもとに、一人ひとりにとって「よい年」、よい「神のいつくしみの聖年」となりますように。マリアはどのように神のいつくしみを注がれ、平凡なナザレの生活の中でその証しをしておられたのでしょうか。

マリアは自分自身を見ることがありません、神と一致すること以外に心を砕きません。自分のことを忘れ、かえりみないこの純粹さ、これこそがマリアのうちで神がご自身の愛を注がれるようにさせたのです。

神はマリアを神の母、人類の母に選ばれました。といってもマリアは当時のイスラエルの娘たちと外見的には何も変わらない平凡な生活を日々過ごしていました。21世紀の日本で生きるわたしたちにとって、時代も生活環境も異なりますが、人間がとるべき神に対する姿勢に変わりはありません。おとめマリア、母マリア、教会の母マリアに注がれる神のいつくしみの愛がこの「特別聖年」の日々わたしたちにも注がれることを希望し、マリアにならい自分をかえりみない純粹さを母マリアに願ひ、わたしたちも人々に神のいつくしみを証しできますように。

母がそこにおられる、闇の中で見守っていてくださると知るとは、子供の心を喜びに躍らせます。力を新たにし、希望を立て直し、光と平和をもたらせます。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ



## 人を赦す (26)

くのり 彰

「人を赦す」ことは、一般的に難しい。それは、その人を信頼していたのであればあるほど、難しくなる。裏切られたという思いが、怒りと悲しみを引き起こし、「罪を憎んで人を憎まず」などと、呑気なことは言っておられなくなる。

「赦せない」という思いが、沸々と湧き上がり、四六時中、寝ても覚めても、心の中で相手を責め、非難し続ける。時がこの怒りや憎しみをやわらげ、いつしかその罪を赦すことができるような状態にしてくれるかもしれないが、しばしば、生涯その罪を忘れず、生涯恨み続けるということが起きる。

相手を赦すことができるとしたら、その唯一の条件は、相手が自分に対して犯した罪を認めることであろうか。認めないならば、当然、赦さなくてもよい（と一般には考えられている）。

この場合、罪を認めるとは、単に口先ではなく、その行為が悪かったことを心から認め、その行為によって精神的物質的に、あるいは経済的に何らかのダメージを与えたことを、心から痛悔することであろう。

その意味では、謝罪文を書けば、済むというものでもない。人はいくらでも丁寧なきれいな言葉を並べることができるからである。また目の前で涙を流して謝ったとしても、残念ながら、これまたパフォーマンスであり得る。目に見えない心ではなく、表面しか見ない一般社会では、これで済むが、心の底まで見抜かれる神の前ではどうであろうか。

いずれにせよ、現実はそのよう簡単ではない。多くの場合、人は自分を正当化し、罪を認めない。自分はそうせざるを得なかった、自分の行為は正しいとあくまでも主張する。「赦せない」と思う相手が、何の良心の呵責もなく、平気でいられる。自分には罪はないと確信しているからである。

神に逆らう者に罪が語りかけるのが、わたしの心の奥に聞こえる。  
彼の前に、神への恐れはない。自分の目に自分を偽っているから、  
自分の悪を認めることも、それを憎むこともできない。(詩 36・2-3)



## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (98)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 修道院に入るのを断念させる (1)

良い男性が皆、修道士に向いているわけでも、良い女性が皆、修道女に向いているわけでもありません。さらに、そもそもだれも、修道士や修道女が、「世界でもっとも良い人」であると言ったことはありません。

十字架のヨハネは、このことをよく分かっていました。キリストから修道生活に呼ばれている人の召命を、キリストの教えに反する人間的な理由で難しくさせ、延期させ、さらに悪いことには、失わせるために働いている人々に対して、きわめて厳しいことを書いています (『愛の生ける炎』B版 3,62)。けれども、彼自身、正当で納得のいく理由から、ある人々が修道院に入るのを断念させています。

セゴビアで生活していた、ヨハネ修士の霊的息子であり、熱烈な弟子であった者が語った逸話が残っています。彼の名は、ミゲル・デ・アングロ。彼自身がこのことを、私たちに語っています。

「…この証人 (訳注: ミゲル・デ・アングロ) は修道者となることを望んでいたもので、聖なる十字架のヨハネ修父と連絡を取り、数日間、修道院に滞在しました。聖人は、彼が修道者となることを阻みました。この証人は、修道者となる望みをなお持ち続けていたので、再度、聖人のところへ行き、フランシスコ会で修道者となるための助言を求めました。家族の者がそれを邪魔していたからです。聖人は、彼が諦めないこと、また修道者とはならないだろうと答えました。この証人は、管区長の許可を取って、フランシスコ会に行くことに固執していましたが、実現せず、そうはなりませんでした。こうして、この証人は、聖なる十字架のヨハネ修父が主と共に働いていたことに気づいたのです」。



## 主の公現 (マタイ 2:1-12)

今日の福音は、星に導かれ遠い東の地から幼子イエスを礼拝するために来た三人の賢者のお話です。この三人の学者たちにとってこの星は希望と喜び、平和の象徴でした。この星は学者たちの旅の目的の地で彼らを待っている、真の世の光の小さな反映にすぎませんでした。

三人の賢者の話はマタイ福音書の中の興味深い部分で、子ども向きの物語のようです。イエスの誕生についての細かい状況説明はある意味でイエスのご生涯に起る出来事を示唆しています。救い主、メシアであるイエスはイスラエルの人たちから反逆されユダヤ教でない異教徒たちに受け入れられました。ヘロデ王、祭司長、律法学者やエルサレムの人々はこの救い主である王に反逆したユダヤ教の人たちです。これにたいして三人の学者はイエスを神の御子であることを認め心から受け入れていました。はっきり言ってこの三人の賢者は異教徒の人であって、ユダヤの救い主であるイエスを探し求めて遠路を旅する深い意味はなかったのです。けれども神の啓示が彼らの心を捕え、生まれたばかりの王である幼子を探し求める困難な旅を強いました。マタイはイエスの誕生を歴史的に示そうとしているのではなく、イエスを信じる人であれ信じない人であれ全ての人にイエスの誕生がもたらした救いのメッセージをはっきり示そうとしました。そのお蔭で神がイエスという一人の人間となって全世界の救いのために到来されたメシアであることの意味が明瞭になりました。ヘロデ王や祭司長たちにはユダヤの王である幼子の誕生の場所は知らされませんでした。既にユダヤの王であったヘロデとその国民は他の王を望まなかったからです。同様に、預言者モーゼが生まれたときにもヘロデ王は自分の地位を守るため、全ての幼子を消すための企てをたてました。

主の公現の祭日はイエスが真の世の光であることを示しています。幼子イエスの誕生によって神の光がこの世界に贈られたことがわかります。ナザレのイエスは神の啓示であり、わたしたちへの贈り物です。神は、わたしたちが理解できるイエスという人となってこの世界に降りてきて下さいました。また三人の賢者の協力により、星と聖書を用いてイエスという人物とその使命を明らかにされました。すべては神が自発的に行われた神の慈しみと恵みによるものです。神が三人の賢者を導くために贈られた星はわたしたちの毎日の生活にも贈られている筈です。その導きに従って一瞬一瞬を歩むよう努めてみましょう。その星は、王であり主であるイエスのところにわたしたちを導いていくに違いありません。

(Sr. Paulina)

## 主の洗礼

イエスは洗礼者ヨハネから洗礼を受けた

救い主であり、神の御言葉であって、罪を犯したことがないイエスが、なぜ罪の赦しを得させるために洗礼者ヨハネが行っていた悔い改めの洗礼を彼から受けたのでしょうか。

マタイ福音書には、イエスが洗礼を受けに来たとき、ヨハネが思いとどまらせようとして「私こそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが私のところに来られたのですか」と語ったと書いてあります。イエスはこれに対して、「今は止めないで欲しい。正しいことをすべて行うのは我々にふさわしいことです」と答えています。ヨハネから洗礼を受けることは正しいことなのです。なぜそうなのでしょう。

聖パウロのガラテヤ人への手紙 4 章 4 節から 5 節がその理由を説明してくれています。「時が満ちると神はその御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」（4 章 4 節）。神はイエスを最初の人アダムのように、いきなり青年から人生を始めるようにすることもできました。しかしまったく普通の人と同じように、聖母マリアの胎内からこの世の生活を始めたのです。また律法の下にある者としてまったく普通のユダヤ人と同じように、ナザレで隠れた生活を送りました。「それは律法の支配下にある者を贖い出して、私たちを神の子となさるためでした」（同上 4 章 5 節）。

このように主は御自分に何の例外もお求めになりませんでした。自ら進んで惨めな罪人である私たちと連帯なさいました。こういうへりくだった主に聖霊が鳩のように下り、天から「あなたは私の愛する子、私の心にかなう者」という声が聞こえました。これは公生活の最後頃に天から聞こえた声（ヨハネ福音書 12 章 28～30 節）と違い、周りにいる人びとに聴かせるためではなく、イエス本人の確信を強めるためだと思います。聖霊によってやどり、「父の家にいるのは当然だ」と 12 歳にして両親に対して毅然と言えたイエスも、徹底的にへりくだってはじめて、御父から公生活を開始するのに必要不可欠な聖霊の恵みが下ったのです。

## 年 間 第 二 主 日 (ヨハネ2：1-11)

典礼は今日から年間になります。福音はカナの婚宴で行われたイエスの最初の奇跡について語っています。結婚は喜びと祝福の時、婚宴はそのお祝いの場です。食卓にはたくさんのお馳走が並びブドウ酒が振る舞われています。音楽が奏でられ人々は踊っています。結婚式はやさしい幸せなムードに包まれています。その意味を掘り下げると、結婚は人間同士の愛、思いやり、一致を深める貴重なときと言えましょう。特にカナの婚宴の奇跡は神の愛といつくしみを表すしるしとして心に響ききます。

イエスが水をブドウ酒に変えてくださったこの奇跡はヨハネ福音書に記るされている七つのしるしの最初のもので、しるしは奇跡であるように見えます。けれどもヨハネはこれらのしるしを一つの特別な目的のために紹介しています。これらの奇跡はイエスについて、またイエスの救い主としての使命について教えるための意味深いしるしなのです。一つひとつの奇跡はイエスが救い主であることを表し、神と全く同じ方であることを悟らせます。イエスは人類のために人となられた神のみことばです。ヨハネはこれらのしるしをイエスのなされた奇跡とはせず、神の力と愛がイエスのうちに行われたしるしであると言っています。一般にしるしは新しい考えや見解を指摘したり説明したりするための道具です。カナの婚宴でイエスは六つの大きな石甕の水を上等のワインに変えてくださいました。ここでわたしたちは母マリアの懇願を聴いて、質素な家族のために奇跡を行われるイエスに出会います。この奇跡は神のみ許に集う天の国の永遠の祝宴を示しているようにも見えます。イエスは全ての人々とこの祝宴を共にしたいと、わたしたち皆を招いておられます。

聖体祭儀は神の絶え間ない現存のしるしです。この聖体祭儀においてイエスはご自分の愛を惜しみなく与え、真の過ぎ越しの食事となるようわたしたちの愛を深めてくださいます。イエスが最後の晩餐でなされたように、主日の聖体祭儀が神の愛を共有する特別な食事となりますように。そこにはカナの婚宴におられた母マリアがいらっしゃることも解るようになります。あのときのマリアの母らしい気遣いはとても有効でした。召使いに言われた言葉は今を生きるわたしたちにも意味深いものです。“この人があなたに言いつけたら、そのとおりにしてください。”ここでのマリアは真に教会を表しておられます。この教会を通してキリストはわたしたちの生活の中に入って来られ、またこの教会を通してわたしたちはキリストの処に行くのです。一人のキリスト者としていつもキリストと共に歩み、キリストに聴き、共に生きることです。キリストの神秘体の中で、キリストとの積極的な交わりを反映させ、闇を照らす光となれるよう、神の恵みを願い祈りましょう。

(Sr. Paulina)

## 年間第3主日

## 「私たちは神の言葉を心と精神と魂の耳を持って聞くべきである」

(ルカ 1 : 1 ~ 4 ; 4 : 14 ~ 21)

何年も前、チャーリーはカナダで地下鉄を作る建設会社を所有していました。事業が成長するにつれ、個人的な家族との生活が犠牲になっていきました。ある日、困り果てたチャーリーは聖書に助けを求めました。読んでいくにつれ、ある文章が突然ページから飛び出てきました。それは「人はたとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては何の得があるのか」(ルカ 9 : 25) というイエスの言葉でした。この言葉がまさにチャーリーに語りかけたのです。「チャーリー、これがあなたに起こりつつある事なのです。」と語っていました。心を持って聞くことは神の言葉を心に収め、自分の状況にどう当てはまるかを見ることです。

精神の耳でどのように聞くのでしょうか。神の言葉を理解しようとするとき精神の耳で聞いています。神の言葉を生き生きとしたものにしようとします。だからミサの間に神の言葉が読まれるとき、イエスが直接自分たちに語り、私たちはイエスが語っているのを聞いていると想像しなければなりません。そして精神で聞くと言うのは神の言葉を理解するだけでなく、生きたものとする事です。

神に言葉を聞く三番目の方法は魂の耳で聞くことです。神の言葉を心に収めるだけでなく、それについて神と語る事です。私たちはチャーリーがした事をします。私たちの生活をみことばにかなうものにするために必要な段階を取る事が出来るよう助けを求めて神に願います。たとえばチャーリーは、自分の状況について祈ってから妻と相談し、会社が自分をだめにしてしまう前に売ってしまったのです。このように神の言葉を聞くことは、それについて神と語り合い、神が何を仰りたいかを知ることです。神について一つのことが真実です。すなわち神は祈りの時間にすぐに語るとは限らないと言うことです。しばしば神は祈りの時間以外に、日常の生活の中で語ります。

聖書と言う靈感を受けて書かれた本の中に値をつけられないほどの神の贈り物があります。キリスト教信仰のより良い知識を築くためにこの贈り物を利用し、本当に評価していることを示しましょう。すべてのキリスト者の家には聖書が、少なくとも新約聖書があるべきです。それは書架の飾りでなく、日々のキリスト教信仰の実践において力と元気さを引き出すことの出来るものです。二千年前、神の限りない善良さが、この世紀のキリスト者のためにこの力の源、生きる水の泉を与えたのです。この思いやりに感謝しますか。神の限りない知恵と愛の祝された泉で自分の信仰を養っているのでしょうか。

## 年間 第4主日

みことばのひびき

(ルカ4：21～30)

本日の聖書の語句を黙想すると、神が非常にパーソナルなやり方でご自分の愛を表わしていることに気づかされます。イエス・キリストの受肉により、神は私たちの間にお住みになりました。神はご自分が神でありながら人間の姿をとり、神が本当に神聖で、完全で、永遠で、いつくしみ深く、赦してくださる方であることを、私たちが知ることができるように私たちの中に住んでくださったとは、神は何て大きな愛を私たちのために持っておられるのでしょうか。神が私たちの中に住むために降臨されたとき、全ての人が神の愛の表明を受け入れたわけではありませんでした。

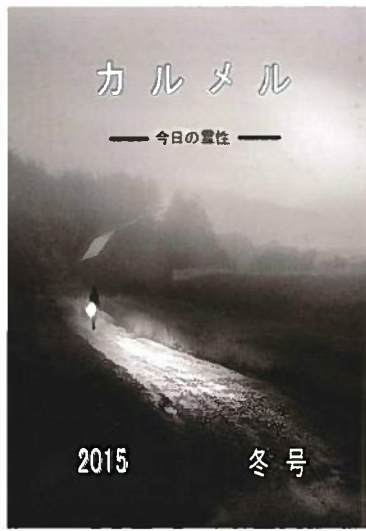
旧約聖書で、私たちは預言者たちが自分の故郷や仲間の人たちから、どれほど排斥されたかを知ります。今やイエスもまた故郷の人たちから同じような排斥を経験します。イエスの故郷の人たちの目にはイエスは彼らの規格にあっていませんでした。子どもの頃からイエスを知っていましたから、彼らにとってイエスは特別な存在ではありませんでした。その人と親しい場合、人間的なもの以上のものを見ることができないということはよくあることです。しかし、聖書は私たち一人ひとりの中においでになる神のご現存を確信させ、福音書は他者が聖霊の内在を知るようになる手助けをするように私たちに求めます。私たちは霊を認めるように内的な目を開くことが必要です。

神の恵みは全能であり、イエスが村の住人たちに語りかける恵みの言葉は、自分たちの村の住人の一人であるイエスが、人間であるばかりでなくまずは神であるというこの驚くべき事実を、全てのの人に信じさせる力を真に持っています。しかし、人はだれでも神の全能の恵みに関して自由があります。これは愛の神秘であり、神の神秘そのものです。イエスは、ナザレの住人たちが自分を拒否するであろうことを前もって知っていました。

私たちが多く愛していればそれだけ多く、人を分け隔てるレッテルや偏見を越えて私たちの愛が多くの人たちに達すればそれだけ多く、私たちは「宗教上の」人々によってさえ、排除され、迫害され、憎まれる、という矛盾、パラドックスがあります。真理と愛のメッセージが排斥され、攻撃され、罵倒された一方で、やり遂げていく特別な力を経験してきました。イエスの生涯は、愛の人になるには支払うべき代価があり、支払う価値がある、ということを明確に示しています。神の愛が私たちにさし出された時、それをすばやく捉まえましょう！ 神の愛は通り過ぎて、二度と、決して戻ってこないかもしれないと思ひましょう。事実、神の恵みはユダヤ民族と異教徒の国々の両者に予定されていました。キリストの初期の弟子や使徒たちは皆、ユダヤ人でした。イエスのご自分の民族を拒絶することは望まれず、むしろ恵みが彼らの中で支配力を持つことを望み、彼らが神と持っていた物質的な絆が、より高い秩序の絆、霊的な絆、恵みの絆によって支配されることを望まれました。

(*Sr. Paulina*)

「カルメル」  
今日の霊性・冬号  
今日の霊性・秋号



2015 冬 No.359

2015 秋 No.358

神が慈しまれた道 (8)

奥村一郎 50

西行と芭蕉の霊性  
——「空」と「枯野」に行く心 (10)

田畑邦治 43

マリアの信仰

ポーリン・フェルナンデス 37

歴代教皇の寸描 (3)  
——ピオ十二世からヨハネ二十三世へ

高橋重幸 32

聖人  
ルイとゼリー (4)  
——幼いイエスの聖テレーズの両親

中山真里 25

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (13)  
——山頂への眺め  
マリー・エウジエンヌ

編・訳 伊従信子

18

風に吹かれて  
——ある情景 (6)

原 造 16

エディット・シュタインの著作に見るアピラの聖テレサ  
——折りの真髓

須沢かおり 9

修道生活の改革  
——アピラの聖テレシアの理想 (4)

九里 彰 3

● 目次 ●  
● 今年の特集 聖テレシアと奉獻生活 ●

エディット・シュタインとアピラの聖テレサが口にしたもの  
——魂の城 (2)

須沢かおり 16

イエスの聖テレシアと男子跣足カルメル修道会についての一考察 (3)

松田浩一 9

修道生活の改革 (3)  
——アピラの聖テレシアの理想

九里 彰 3

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

あまりにもささやかで、きつとすぐに消えてしまうような、ふとしたこと。意図も意思も何もなく、たまたま出会い、たまたま触れ合い、あたかも風のように、傍らを通り抜けて行くようなこと。

けれども、そのことのために、胸の内に何か満ち、何か懐かしく大切になるような、そういう出来事が日常にはあります。

教会へ行く日曜日の早朝、家を出るときはまだ暗く、やがて、日の出を迎える空が徐々に明るみ、雲のたなびくさまは刻々と変わりゆき、色彩を放ち、夢のような美しさを醸す。 鶉色、珊瑚色、薔薇色、堇色、瑠璃色、桔梗色、消炭色、薄墨色……柔らかくも澄み切って透明で、絶妙なグラデーションが、空をいっぱいにするのを、我を忘れて見とれること。

もじゃもじゃの毛で、ころころと丸まった小さな犬を片手に引き、もう片方の手には、犬と同じに見えるもじゃもじゃの髪が愛らしい、小さな女の子の手を引いた若いお父さんが、これまたもじゃもじゃの髪。 小さな路地で行き合って、三者の恰好があまりにも楽しくて、和やかで、うれしくなって「こんにちは」と笑みを交わしたこと。

茹で上がった小松菜の、瑞瑞しい青色に、びっくりし、あらためて心を奪われてしまったこと。

ショッピングカートを引きずりながら、階段を上っていた時に、ひよいと近づいてきた、いかにも今ふうの若者が、「持ちますよ」と、軽々と片手で抱え、上まで運んでくれたこと。 そのさわやかな笑顔。

小説や、テレビドラマや、何気ない新聞記事が、深く胸に迫って涙が込み上げ、泣くこと。

病身の老夫と二人、路面を埋めるとりどりの落ち葉の中から、色や形を見定めて、「これいいね」「これはどう？」と拾い上げ、「やっぱりこっちの方がいい」と、自慢し合う小春日和。



遠い昔、近しく共にいた仲間の訃報。 遙かな時間を越えて、甦るあまたのことごと。 深い想いの内に、神のみ前に頭を垂れる静かなひととき。

歩道橋の欄干に、10羽ほどの雀が一行横並びにとまっていて、みんな同じ方向を向いていて、すぐ横を通ったのに、一羽も飛び去らなかったこと。

深夜に独りで、お笑い番組を見て、独りで呵々大笑。

テレビの画面に向かって、みーは一さながら「遼ならできる！」と、声をからして応援した、石川遼の優勝。

昨日、今日、そして明日、こうしたささやかな出来事を、身の丈いっぱいに浴びて、何ものかにすっぽりと温かく包まれるような、満ち足りた味わいを、私は得難い奇跡のように、よろこびに思っています。

そして、別のこともあります。 悲しみがあまりに深く、眠れない夜や、身も心も痛むのを、ただただ耐え忍ぶ日。 魂に突き刺さるとげを、かみしめつつ、両手を神の方へと差し出す時を、避けることはできません。

けれども、どれもこれも今ここにあることの、この全部が、神さまからの奇跡のような贈りものと思えています。

作家の大江健三郎氏が、パレスチナの作家エドワード・サイードの言葉というのを、紹介しておられたのをみて、深く深く心に留めました。

『老年の窮境は、打ち砕くことも乗り越えることもできないが、  
深めることはできる』

確かに、私にとってとりわけこれからは、心を潜めて、底へ底へ、深く深く、明るみの方へと歩みゆく生となるはずです。

すべてを素直に受けとり、すべてを素直にゆだねる、心の貧しい者でありたいと願っています。

心の貧しい幸いな者でありたいと、切に願っています。

# いのちの言葉 1月

主の力ある業を広く伝えるよう招かれています。

(ペトロの手紙一 2・9参照)

神が働かれるとき、素晴らしい業を成し遂げられます。宇宙を創造された神は、それを見て「良し」(創世記1・25)とされ、男と女を造られた後に、彼らに委任になった全被造物は「極めて良かった」(創世記1・31)と記されています。

しかし、これらすべてにまさる神の業は、イエスにより成し遂げられた業です。イエスは死と復活により、新しい世界と新しい民を生み出されました。互いに受け入れ、分かち合い、自分を他者に与える真の兄弟愛をお示しになり、天の生き方を私たちに与えてくださいました。今月のみ言葉の出典である「ペトロの手紙」には、神の愛ゆえに、初期のキリスト者たちは「選ばれた民、王の系統をひく祭司、聖なる国民、神のものとなった民」とされたと言われています。(一ペトロ 2・9-10)

私たちも、初期のキリスト者のように自分が何者かを自覚し、神のあわれみが私たち一人一人の内で、また私たちの間や周りで、どれほど働かれたかに気づくなら、驚嘆し、あふれる喜びを他の人と分かち合わずにはいられないでしょう。主の力ある業を広く伝えたいと感じることでしょう。

しかし私たちが互いに孤立しているなら、イエスが命を賭けて与えてくださった新たな世界の素晴らしさを、証しすることはできません。ペトロの招きは、全ての人に向けられています。自分たちの間に争いや分裂があったり、互いに無関心であったりしながら、「新しい民をお造りになった神は、利己心や恨み、憎しみから私たちを解放され、相互愛の掟をお与えになり、私たちを一つの心一つの魂にしてくださいました」と語ることはできません。キリスト者の間に、考え方や伝統、文化の違いがあっても、それは多様性に富む美しさとして尊重され、認められるべきものです。一致は、画一性とは違います。

これは、一月十八日から二十五日まで行われる「キリスト者一致祈禱週間」の中で、また年間を通して、実践される歩みです。今月のみ言葉は、異なる教会やキリスト者共同体の間で互いをよりよく知り、主の力ある業を共に伝えるよう、招いています。違いを尊重しつつ一致し、具体的に支え合う証しを通して、私たちは人々が信じられる形で「主の力ある業」を告げることができるでしょう。

こうした歩みを力強く励ましたキアラ・ルービックも言っています。

「愛こそ、この世で最も力あるものです。愛を生きる人の周りには、静かにキリスト教的な革命が生まれます。初期のキリスト者たちの言葉『私たちは昨日生まれたばかりなのに、すでに全世界に広がっている』<sup>1</sup>を、こんにち私たちも繰り返すことができるでしょう。

この世で、また私たちキリスト者の間で、愛がどれほど必要とされていることでしょう！ キリスト者は世界で十億人を超え、こんなに大勢いるのですから、

私たちはもっと目に見える存在であっていいはずですが、現実には、キリスト者の間に多くの分裂があるため、多くの人の目には私たちの存在が見えず、まして人々は私たちを通してイエスを見ることができずにいます。

『互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる』(ヨハネ13・35)とイエスは言われました。世は、私たちの間の相互愛と一致を見て、私たちがイエスの弟子であると知り、またイエスを知るようになるのです。今の時代は、愛と一致、交わりと連帯を、私たち一人ひとりに求めています。何世期にもわたり崩れている一致を築き直すよう、諸キリスト教会は招かれています。』<sup>2</sup>

ファビオ・チャルディ神父

\*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い・新年会

- 関東 1月9日(土) 13:00~15:30 吉祥寺教会信徒会館で新年会  
1月11日(月・祝) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室  
(週日に、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)
- 中部 1月10日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」
- 近畿 1月17日(日) 13:30~ 大阪 カトリック香里教会
- 長崎 一日マリアポリ 1月31日(日) 10:00~16:00  
カトリックセンター講堂

\*詳細は各フォコラーレ・センターまで。

連絡先:フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

<sup>1</sup> テルトリアヌス「Apologetico (護教論)」37.7

<sup>2</sup> キアラ・ル・ビック「Il dialogo e' vita (対話は生活)」

ローマ 2007年 pp.42-43

## 糸巻き棒からペンへ(5)

—現代人のためのイエスの聖テレジアの教え—

エドゥアルド・サンス・デ・ミゲル OCD



その修練女にとっては、もっとまじめな修道院長の方が、もっと聖なる人のように思えたのです。聖テレジアはそれを耳にし、修練女に言いました。「その通りです。カタリーナ母さまは、とても徳が高いので、私よりずっと聖なる方です。その点、あなたは真実を言いました。私は名声を持ち、彼女は徳を持っています。けれども、少ししか笑わないからより聖なる人なのではありません。それは、徳ではなく、欠陥です」。

マドリッドの王立跣足修道会の院長である十字架のホアナは、1569年、聖テレジアを知った時、修道女たちに言いました。「主は祝せられますように。主は、私たちのように食べ、寝て、話す、堅苦しくない、すべての者がまねできる一人の聖女に会うことを、私たちにお許しになりましたから」と。実際、彼女は、生活においても、キリスト教の礼拝においても、仰々しいことは嫌いでしたから。彼女は、単純で「わざとらしきのない」ことを好みました。

ロレンソ・デ・セペダの娘で、姪のテレシータは、聖女の死の時に、こう証言しました。「外見はとても屈託なく上品なものでしたので、だれも彼女を聖女とは見なしませんでした。でも彼女の存在全体には、よく分からないながら何かとても深いものがありましたので、彼女と交わる人々に、そう思わせようと努めることなく、彼女がとても聖なる人であることを信じ、悟らせる力がありました」。

聖テレジアにとって、喜びは、自分が無償で愛されていると知ることから生まれてくる命の特典でした。「(神は)だれに対しても、えこひいきをなさいません。彼はすべての人を愛されます。…けれども主がご自分の秘密や偉大さをわからせたもう時に感じることを、言い表すことはできません。その楽しみは人の悟り得るいっさいをはるかに超えています」(『自叙伝』27, 12)。自分が愛されていることを知ることは、彼女が喜びをもって生きるようにさせ、その喜びを他の人々に伝えていくようにさせました。それゆえ、自分自身について、「どこにしようとも喜びを与える」よう絶えず努めていたと言っています。

彼女の自然的な魅力や明るい気質は、数えきれない人々の心の扉を開き、人間関係の複雑なネットワークを構築していく助けとなりました。

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年11月24日

## イエスの聖テレジア列福列聖調査過程全集 完成

2015年11月23日の夜7時に、アビラ市のラ・サンタ修道院の会議室で、新しい《母イエスの聖テレジア列福列聖調査過程全集》の完成版が披露されました。フーレン・ウルキサ神父 OCDは、20年間かけて26の町村にわたる35の調査過程を収集し、5,500ページにも及ぶ6巻の全集にまとめました。これには、1591年～1597年の情報収集調査過程、1604年の審問一般調査、1609年～1610年の審問特定調査、1614年～1622年の列聖最終段階の全ての必要文献が記載されています。

跣足カルメル修道会イベリア管区のみゲル・マルケス神父は、「イエスの聖テレジア生誕500周年記念祭のもっとも重要な作品の一つがここにあります。」と述べました。この作品は、1934年—1935年に刊行されたシルベリオ神父の著作 *Biblioteca Mística Carmelitana 18-20* の3巻1,665ページをさらに拡大したもので、調査過程、公証人手続き、カルメル修道会の代訴人、使徒的書簡等のローマからの文書が加えられています。

式典には、フーレン・ウルキサ神父のほかに、アビラのヘスス・ガルシア・ブリジョ司教、ペドロ・アンヘル・デサ神父、イベリア管区の出版グループの編集長、イエスの聖テレジア生誕500周年記念基金の代表者、その他カルメルファミリー関係者たちが参加しました。

この出版事業の完成のために、エル・カルメン社とモンテ・カルメロ社とエデ社がと協働しました。

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

## << Communications (時事通信) >>

29/11/2015

### Father Saverio Cannistrà elected member of the Executive Council of the Union of Superiors General (USG)

The Union of Superiors General (USG) celebrated its 86th semiannual assembly November 25 through 27. The executive council for the triennium 2015-2018 was elected on November 26th and is as follows:

**President:** Fr. Mauro Jöhri, Minister General of the Friars Minor Capuchin

**Vice president:** Michael Brehl, Superior General of the Redemptorists

#### **Council members:**

- Father Heinz Kulüke, Superior General of the Society of the Divine Word
- Father Ángel Fernández Artime, Rector Major of the Salesians
- Father Heinrich Wilmer, Superior General of the Priests of the Sacred Heart
- Father Mario Aldegani, Superior General of the Josephites of Murialdo
- Father Jeremias Schröder, archabbot, president of the Benedictine Congregation of St. Ottilien
- Father Robert Schieler, Superior General of the Brothers of the Christian Schools
- Father Ferruccio Brambillasca, Superior General of the Pontifical Institute for Foreign Missions (PIME)
- Father Saverio Cannistrà, Superior General of the Discalced Carmelites
- Father Thomas Handgräteringer, Abbot General of the Canons Regular of Prémontré
- Father Pedro Aguado Cuesta, Superior General of the Piarists

We note that Father Saverio also belongs to the Council of 16, a consultative body consisting of eight members from the USG (masculine) and eight from the UISG (feminine) that meet twice a year with the Congregation for Institutes of Consecrated Life and Societies of Apostolic Life (CIVCSVA).

# カルメル会の企画案内



# 《 カルメル会 四旬節講話シリーズ》

神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—



日時： 2月14日（日）： 三上 和久神父（カルメル会司祭）  
「福音と家庭、教育の原点である神のいつくしみ」

2月21日（日）： 今泉 健神父（カルメル会司祭）  
「いつくしみの泉である教会」

2月28日（日）： 松田 浩一神父（カルメル会司祭）  
「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ —イエスの聖テレサの場合—」

3月6日（日）： Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ）  
「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」

3月13日（日）： 九里 彰神父（カルメル会司祭）  
「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」

日時： 上記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）  
〈カルメル修道会主催〉

場所： カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会 [TEL:03-3704-2171](tel:03-3704-2171)



# \*\*\*\*\*日帰り黙想会\*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

\*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：2016年 1月15日(金) 午後1時30分～午後4時

1月28日(木) //

2月12日(金) //

2月25日(木) //

3月11日(金) //



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

# 上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

## 黙想企画 \*\*上野毛聖テレジア修道院(黙想)\*\*

### 1. 祭日のミサに参加するために

**【聖週間】** チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

**【クリスマス】** チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

### 2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

#### 【聖人たちを支えた神のことば】

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

#### 2016年

4/28 (木)、5/13 (金)、5/26 (木)、6/24 (金)、6/30 (木)、  
7/8 (金)、7/21 (木)、9/8 (木)、9/16 (金)、10/28 (金)、  
11/11 (金)、11/24 (木) 12/9 (金)、12/22 (木)

#### 2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)  
3/24 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

### 3. 奉献生活者のための黙想会

#### 2016年

7月31日(日) 18時～	8月 9日(火) 朝	福田正範神父
8月12日(金) 18時～	8月21日(日) 朝	福田正範神父
10月13日(木) 18時～	10月22日(土) 朝	福田正範神父
12月27日(火) 18時～	2017年1月5日(木) 朝	福田正範神父

#### 4. 青年黙想会(男女)

2016年

4月16日(土) 16時～17日(日) 16時

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

#### 5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

#### 6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

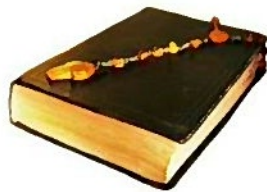
3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

#### 7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

5月27日(金) 20時～29日(日) 16時

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

## 2016年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

<b>【一般のための黙想】</b>	1月 9日 (土) ~10日	いつくしみの顔さがして..特別聖年を生きるために	中川博道神父
・1泊2日	4月16日 (土) ~17日	復活したイエスを捜しつづける私たち	中川博道神父
(午後5時~午後4時)	5月 6日 (金) ~ 8日	イエスいつくしみの愛のもとに留まる	中川博道神父
	9月10日 (土) ~11日	人生の実りを思いめぐらす	中川博道神父
<b>【聖書深読黙想会】</b>	1月 9日 (土)	7月 2日 (土)	中川博道神父
・1日	2月 6日 (土)	9月 10日 (土)	中川博道神父
	4月 9日 (土)	10月22日 (土)	中川博道神父
	5月14日 (土)		中川博道神父
	6月11日 (土)		中川博道神父
<b>・水曜の黙想</b>	1月20日 (水)	主の慈しみは、新たになる	松田浩一神父
(午前10時~午後4時)	2月24日 (水)	生きることの見直し	中川博道神父
	3月16日 (水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一神父
	4月20日 (水)	イエスと共に日々を振り返る	シスター・ロサ
	5月18日 (水)	神のいつくしみの啓示者イエス。キリスト	松田浩一神父
	6月 8日 (水)	神のいつくしみとイエスの聖テレサ	松田浩一神父
	7月20日 (水)	神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ	松田浩一神父
	9月21日 (水)	神のいつくしみとエディット シュタイン	松田浩一神父
	10月19日 (水)	神に愛されている喜び	シスター・ロサ
	11月16日 (水)	いつくしみの御母、聖マリア	松田浩一神父
<b>キリスト教霊的同伴</b>	1月29日~30日 (土)	7月 8日~ 9日 (土)	松田浩一神父
午後8時~午後3時まで	2月19日~20日 (土)	9月 2日~ 3日 (土)	松田浩一神父
(金) 夕食なし	3月18日~19日 (土)	10月21日~22日 (土)	松田浩一神父
	4月22日~23日 (土)	11月11日~12日 (土)	松田浩一神父
	6月03日~04日 (土)	12月 2日~ 3日 (土)	松田浩一神父
<b>・四旬節の黙想</b>	3月 5日~ 6日 (土)	問題性から脱出すること	中川博道神父
(午後5時~午後4時)			
<b>・待降節の黙想</b>	12月10日 (土) ~11日 (日)	夜露のように静かに訪れる神を待つ	中川博通神父
(午後5時~午後4時)			
<b>・聖テレーズの黙想</b>	9月30日 (金) ~10月1日 (土)		伊 従 師
(午後5時~午後4時)			
<b>カルメル青年の集い</b>	4月29日 (金)	11月23日 (水)	松田浩一神父
(午前10時~午後4時)			
<b>一般のためのカルメルの霊性セミナー</b>	1月23日 (土)	キリストの神秘体的一致	松田浩一神父
(午前10時~午後4時)	2月 6日 (土) ~ 7日 (日)	カルメルの最初の隠修士の霊性	松田浩一神父
(午後5時~午後4時)	5月 2日 (月) ~ 5日 (木)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
		イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
	10月14日 (金) ~15日 (土)	イエスの聖テレサの霊性	松田浩一神父
	12月13日 (火) ~14日 (水)	十字架の聖ヨハネの霊性(2)	松田浩一神父

奉献生活者の黙想  
(午後5時～午前9時)

8月2日(火)～11日(木)  
8月15日(月)～24日(水)  
12月27日(火)～1月5日(木)

中川博道神父  
松田浩一神父  
松田浩一神父

English Retreat  
(10am to 4pm)

5月28日(土)  
11月26日(土)

Come to me you broken hearted.  
Maranatha-Come Lord Jesus

シスター・ロサ  
シスター・ロサ

### 祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月31日(木)～4月3日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(土)～12月25日(日) {講話なし、各食事つき}



『その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。』

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 『社会人のための霊的同伴』

## — 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴**(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

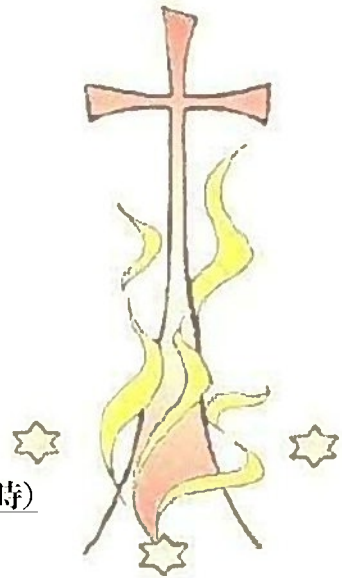
### 【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(**霊的理解**)を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

### 【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 1月29日(金)～30日(土)  
2月19日(金)～20日(土)  
3月18日(金)～19日(土)  
6月 3日(金)～ 4日(土)  
7月 8日(金)～ 9日(土)  
9月 2日(金)～ 3日(土)  
10月21日(金)～22日(土)  
11月11日(金)～12日(土)  
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 一般のためのカルメルの霊性セミナー

場所 : カルメル会聖テレジア修道院<黙想> (京都)

日時 : 1月23日(土) AM10:00~PM4:00まで

テーマ : 『キリストの神秘体の一致』

《2016年キリスト教一致祈祷週間の中で》

参加者 : カルメル会の霊性に興味のある人

参考図書 : 「カルメル誌 : 2015年特集号」

費用 : 3,000円

指導 : 松田浩一 神父 (カルメル会士)



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

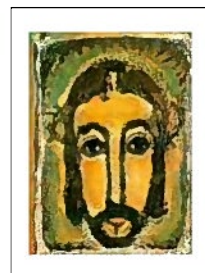
TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457



[teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—

1. 日時： 1月23日(土)： 九里 彰神父  
「いつくしみの特別聖年について」  
3月21日(月)： Sr. 伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)  
「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」  
5月21日(土)： 松田 浩一神父  
「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ  
—イエスの聖テレジアの場合—」  
7月18日(月)： Sr. ポーリン・フェルナンデス  
「神のいつくしみの生きた証人となれ…  
(福者フランシスコ・パラウと他)」  
9月19日(月)： 今泉 健神父  
「いつくしみの泉である教会」  
11月23日(水)： 九里 彰神父  
「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」

場所：カトリック日比野教会 信徒会館  
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)

2. 参加費：1000円
3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
4. プログラム  
10:00 導入の祈り(聖堂)  
10:20 第一講話(信徒会館)  
11:30 念祷① 赦しの秘跡または面接  
12:00 昼食(信徒会館)  
12:30 念祷② 赦しの秘跡または面接  
13:00 第二講話  
14:00 念祷③  
14:30 ミサ(聖堂)  
15:30 茶話会(信徒会館)  
16:00 終了の祈り
5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。  
FAX/0568-62-5167  
mail/seisyuu\_2015@yahoo.co.jp  
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田1-26  
「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉



## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

13：30～ 聖書朗読 短い講話

14：30～ ベネディクション 聖体顕示

15：30～ 聖体拝領

16：00～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

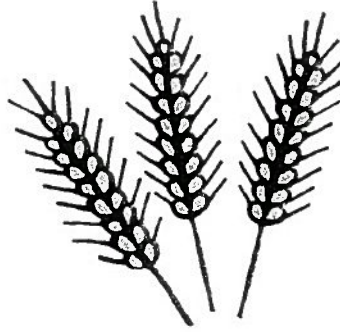
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
慈しみ深き会

---

## ※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

### 6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

#### 2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い  
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザクの病人 (ヨハネ 5:1,-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1,-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☞ 個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター  
865-0133 熊本県玉名郡和水町鱈浦 1391-7  
☎ 0968.85.3100  
e-mail: shinmeizan@gmail.com  
www.shinmeizan.com

## リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2016年～2017年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

### ●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。  
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2015年度 冬学期: 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6  
2016年度 夏学期: 4/9, 4/23, 5/7, 5/14, 5/21,  
5/28, 6/11, 6/25, 7/2, 7/9, 7/23, 9/3, 9/10, 9/17

### ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

### ●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。  
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。  
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。  
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。  
・「通う霊操」 8月20日(土)～8月28日(日)  
18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

### ・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切りは、初日の8日前。  
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

### ●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

2016年

1月9日、2月13日、3月5日、4月9日、5月7日、6月11日、7月2日、8月6日、9月10日、10月1日、11月12日、12月3日

2017年

1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

### ●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分  
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、4月28日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

### ●坐禅接心

4月28日(木) 20時20分～5月5日(木) 8時40分  
6月3日(金) 20時20分～5日(日) 13時00分  
8月7日(日) 20時20分～13日(土) 8時30分  
10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分  
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。  
事前申込み要。

[関西]

4月16日(土)13時30分～17日(日)15時、7月30日(土)17時45分～8月5日(金)15時。  
宝塚黙想の家。事前の申込み要。  
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

### ●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。  
4月23日(土)、6月25日(土)、10月15日(土)、2017年1月29日(日)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス [http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)

- 01/08 霊の動き— 福音による生き方
- 01/15 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰
- 01/22 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
- 01/29 結婚と独身— 愛の道
- 02/05 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 02/12 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
- 02/19 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 02/26 死— その受け入れと克服
- 03/04 人生の完成— 神の内に生きる
- 03/11 聖母マリア— 信じる者の原型
- 03/18 ●御受難と御復活の黙想(予定)
- 03/25 ○休み(聖金曜日)
- 03/27 ◆復活祭のミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
- 4/8 信仰の道— 人生の意義を問う
- 4/15 聖書の間人像— 人間の現状と使命
- 4/22 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
- 5/6 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
- 5/13 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
- 5/20 歴史と信仰— 神との出会い
- 5/27 内なる神— その「似姿」としての人間
- 6/3 新約聖書の神理解— 主なる父
- 6/10 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
- 6/17 救い主の役割— 人類の待望
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/24 神の国— イエスの告げるメッセージ
- 7/1 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
- 7/8 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
- 7/15 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[日常生活]

- 01/05 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼
- 01/19 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘
- 02/02 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり

[信仰の実現]

- 02/16 祈りの本質と霊的読書— キリストとの心の交流
- 03/01 創造的霊性— 活動における観想
- 03/15 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う
- 03/27 ■復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
- 03/29 ○休み

[基盤]

- 4/5 存在の超越と内在 — 神理解への道

[人間]

- 4/19 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰
- 5/17 救いの歴史 — 時間における意義

[神]

- 5/31 無限への問い — 理性による神理解
- 6/7 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### いのちの泉へ

#### すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、  
キリスト者としての靈性を養うための  
沈黙の祈りで構成された集いです



東京

いつくしみの特別聖年に

1月23日(土)、

2月27日(土)、3月19日(土)

午後2時 ~ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

\*\*\*\*\*

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

京都

1月9日(土) 13時半~15時 京都NDV 担当：伊従信子

『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』聖母の騎士聖母文庫  
6章 神の愛を信じて

1月12日(火) 13時半~15時半 河原町カトリック会館3階

\*『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』 担当：伊従信子

『弱さと神の慈しみ』伊従編著、サンパウロ出版

\* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15~15時半

1月23日(土) 14時~16時 河原町カトリック会館7F

祈り：「都の聖母」聖堂にて15時半~16時 担当 中山真里

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : [ndvkyoto@gmail.com](mailto:ndvkyoto@gmail.com)



## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>  
**★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります**

| コース         | 日時<指導者>                       | 指導者  | 開催場所                      | 申込み                                 |
|-------------|-------------------------------|------|---------------------------|-------------------------------------|
| 入門C         | 2016/1/17(日)<br>9:30-17:00    | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 若山美知子※<br>Tel & Fax<br>03-5802-3844 |
| サダナ I       | 2/11(木)17:30-<br>2/14(日)16:00 | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                  |
| フォロー<br>アップ | 2/28(日)<br>9:30-17:00         | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                  |
| サダナ II      | 3/17(木)17:30-<br>3/21(月)16:00 | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                  |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A, B, C)  
 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と  
 「心の解放」をめざす。

◆サダナ II  
 Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わり  
 のもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2016年 5月 30日(月)～ 6月 7日(火) 中川博道 師（加母会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

# 捧げるということ

2015年度 召命黙想会

|   | 日時               | テーマ              | 講師          |
|---|------------------|------------------|-------------|
| 1 | 5月16日(土)～17日(日)  | 網を捨てて従う          | 山内十束師(ご受難会) |
| 2 | 9月12日(土)～13日(日)  | 人里離れたところに行く      | 山内十束師(ご受難会) |
| 3 | 11月21日(土)～22日(日) | あなたがたがパンを与えなさい   | 山内十束師(ご受難会) |
| 4 | 2月13日(土)～14日(日)  | イエスよ、私を忘れないでください | 山内十束師(ご受難会) |

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 捧げるということ

イエスよ、私を忘れないでください

2015年度 第4回 召命黙想会

日時： 2016年2月13日 (土) 15:00 ～

14日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年2月7日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

## 【2016年予定】

- 1月21日(木) 『靈魂の城』の最終回：第七の住居・第四章
- 3月17日(木) 『靈の賛歌』第1回目：導入の講話（緒言と詩）
- 5月26日(木) 『靈の賛歌』第2回目：はしがき・概要・注解
- 7月21日(木) 『靈の賛歌』第3回目：第一の歌（2～12）
- 9月22日(木) 『靈の賛歌』第4回目：第一の歌（13～22）
- 11月17日(木) 『靈の賛歌』第5回目：第二の歌
- 12月15日(木) 『靈の賛歌』第5回目：第三の歌

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

## ＜＜特別黙想会＞＞

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



\*Br.田中は、日々のお出合いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

## 〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編  
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016  
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

**郵便番号口座： 00110-4-297250**

**加入者名： カルメル靈性センターニュース**

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

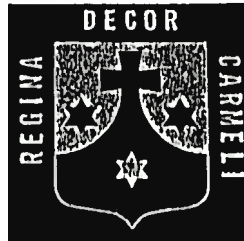
「新年明けましておめでとうございます」。

この言葉を、私は後、何度口にすることができるのだろうか。先日、某新聞で末期癌の医師であり僧侶でもある方の記事を読んだ。「医学はいのちを延ばすことを扱うわけですが、そのいのちをどう生きるかという問題にはまったく役に立たない。体の痛みを止める医師が必要であるのと同じように、『いのちの苦』の専門家がが必要です。それがほとんどいないのは日本の医療の欠陥だと思います」と答えられていた。

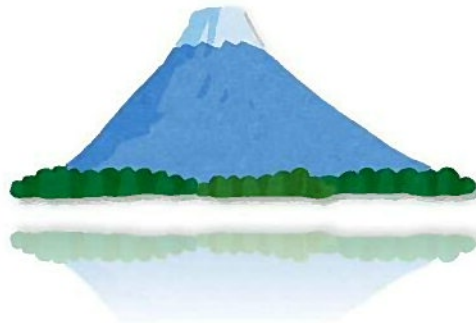
今この時、病床にあり、今度の誕生日を迎えられるだろうかと苦しんでいる方も多いのではないだろうか。与えられたいのちに感謝し、喜びのうちに死を迎えることができるのは、信仰のお恵みである。何も恐れることはない。「キリストは、晴れやかな心で死んでいったのだ」と大拙さんだったか禅僧のどなたかであったかが言われたが、「さもありません」である。

生き延びていることをただ喜んでいるのでは、その人の頭がおめでたいだけである。

(P.九里)



HAPPY NEW YEAR!!



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「2月号」製本日

**1月26日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール 1 階  
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171